荒野のメガロポリス

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

【小説タイトル】 荒野のメガロポリス

Zコード N76600

坂田火魯志

【作者名】

あらすじ】

GENJIのヒット曲からヒントを得た作品です。 僕達のいるメガロポリス。 そこから出て僕達が見たものは。 光

荒野のメガロポリス

僕達が今暮らしているこの街。 所謂メガロポリスだ。

アメリカの繁栄の象徴であるこの街には何でもある。 ないものを

探す方が難しい。

車もあればテレビもある。 娯楽も何だってある。

ちょっと探せばきついやつなら仕事だってある。 それも結構ワリ

のいい仕事がだ。

「不況だっていうけれどな」

「そうだよな。探せばな」

「仕事はあるんだな」

゙ヨーロッパよりずっとましだろ」

故かニューズウィー クやフォー ブスはそのことが楽しくて仕方がな とりあえずEUの方が洒落にならないってことは聞いている。 何

いらしい。 いつもそのことを喜んで書いている。

雑誌のことを思い出しながらだ。 僕達はこの日も働いていた。 清

掃業だ。

「今日はこっちを掃除して」

「明日は向こうのゴミ捨て」

「ゴミは減らないよ」

「全くだね」

お金を手に入れてそれで派手に遊ぶ。 こんな話をしてだ。 僕達は街中を動き回って朝から働いてい 食事はハンバーガー にホット

ドッグ、それとコーラだ。

そんなアメリカンな生活を楽しんでいる。 しかしだ。

ふとだ。僕はこんなことを思った。

あのさ」

んつ?」

- 「どうしたんだ?」
- 「いやさ。この街を出るとだよ」

で車を停めてその横に出てだ。 僕は言うのだった。今僕達は仕事の休憩時間だ。 コー ラやアイスクリ 作業服のまま道 ムを楽しみな

がら話している。その時に言ったのである。

- 「どんな感じかな」
- 「ああ、そういえばな」
- 俺達ってこの街出たことないよな」
- 「っていうかな」

ここで皆気付いたのだった。あることにだ。

- このメガロポリスから外ってな」
- 「出たことないよな」
- 「何だってあるしな」
- 「ないものないしな」

あるものを挙げていくとだ。きりがない。 しかしだ。

その外のことはだ。僕達は知らなかった。 どんな世界なのかをだ。

それでだ。僕は言うのだった。

- 別にシカゴとかシアトルとか行くんじゃないし」
- 「とりあえず外か」
- 「外に出てみるっていうんだな」
- 「このメガロポリスから」
- ああ、そうしてみない?」
- また皆に話した。
- 「今度の休みにでも」
- 「面白いな、それ」
- 「だよな」
- 「一度もここから出たことないしな」
- 「それもちょっと出るだけだよな」
- 皆僕にこう言ってきた。
- 別に外国とか遠くに行くわけじゃなくて」

「街を出るだけ」

「そうするんだな」

「うん、そうだよ」

がだ。 で休んでいるのだ。 笑顔で話す僕だった。 何処までも連なっている。 空まで届きそうなガラスとコンクリートのビル 今僕達のいる場所は高層ビル群だ。 その中

宅街。 りだ。 商店街、そしてアパートが集まるダウンタウンにお金持ちがいる住 で溢れ返っている港に一旦入るとちょっとやそっとじゃ出られない 他には煙があちこちから出ていつも誰かが中にいる工場地帯に 緑の豊かな公園。 メガロポリスにあるものはこんなものばか

そして外から見たメガロポリスはどんなものか。 けれど外に何があるのか。 僕はそれを確かめたくなったのだ。 それも知りたか

それで皆に言った。するとなのだった。

皆賛成してくれた。そうしてだった。

その休みの日になった。 次の休みに皆で街の外に出てみることになった。 皆それぞれラフな格好になってそのうえ 話は決まっ

で集まってだ。車で街の外に出るのだった。

「車でどれ位だった?」

一時間か」

「二時間か」

まあそんな位だな」

「そうだよな」

車に乗ってからそんな話をしてだ。 街の外に向かった。

一時間半程だった。それで外に出た。

外に出るとだ。そこにあったのは。

おいおい」

本当に見渡す限りだな」

そうだな」

「あるのは道と」

僕達が街を出るのに使った道はだ。それは一直線に遠くに続いて

いた。

何処まで続いているかわからない。 地平線の彼方に消えてしまっ

ている。

そしてだ。 周りはだ。 道の他には何もなかった。

僕達はだ。 赤い大地が広がっている。 何か途方もない場所に来た気がしてだ。 何処までも何処までも。 それぞれ言う それを見てだ。

のだった。

「ここってな」

「何なんだろうな」

「メガロポリスの外ってな」

こんな荒野だったんだな」

「意外だったな」

正直なところ何があるかなんて考えちゃいなかった。 ただ漠然と

外に出たかっただけだ。 のは赤い荒野だった。 しかし外に出てみるとだ。 そこにあったも

上を見上げると青い空が広がっている。これも何処までもだ。

い雲も見える。

そして黒い道がある。他には何もない。

その何もない荒野がだ。 メガロポリスの外だったのだ。

仲間の一人が言った。

「ここって人住めないよな」

「家、一軒もないぜ」

ドライブインすらな」

仲間達が彼に言い返す。本当にその通りだ。

本当に見渡す限りな」

「荒野だな」

「何もないな」

そしてだった。僕達の街も見た。するとだ。

自然にこう思えてきたのだった。僕が言った。

何かね」

白

- 「何か?」
- 「何かあるのか?」
- 「うん、メガロポリスも」
- そのメガロポリスについてだ。こう思った
- あれだね。 中にいたら物凄く大きく思えるけれど」
- 「実際に大きいじゃないか」
- たあ」
- 「中には何でもあるしな」
- 「人も多い」
- 「迷路みたいだしな」

リスは縦も横も迷路みたいになってる。 道も入り組んでいる。 それも今じゃ地下だってそうだ。 そしてその何処にも人が蟻 メガロポ

みたいにいる。

けれどそれでも。 こうして見ると。実にだった。

- 「小さいね」
- 「小さいか」
- 「そうか」
- 「そう思うんだな」
- 荒野の中に浮かんでるみたいだよ」

街を一歩出れば荒野が広がっている。 その中に浮かんでいるよう

だった。

本当にそんな感じで荒野の中にぽつりとある。 子供の頃大草原の小さな家って本を読んだ。 ここから見るメガロ それも思い出した。

ポリスはそんな感じだった。

それでだ。僕はまた皆に言った。

- 「ねえ」
- 「ああ」
- 「今度は何だ?」
- 「僕達の世界って。こんなのかも知れないね」

メガロポリスのその白い高層ビルの柱達を見ながら言った。

- ゙こうしてさ。広いようで狭くてさ」
- 「そしてか」
- 「それでなんだな」
- 「うん、その狭い世界の中で暮らしてる」
- 僕は皆に話し続ける。
- 「そうして生きてるんだね」
- 「ちっぽけなもんなんだな」
- ・俺達って」
- そうだよな」
- 「メガロポリスもね」
- その僕達がいるメガロポリスも。 そうだと思っ た。
- 「ちっぽけなものだよ。小島みたいなものだよ」
- けれどその小島の中でな」
- 「俺達は生きてるんだよな」
- 「そうだよな」
- 「そうなるよな」
- 「そうだね。何か面白いね」
- 急にだ。こう思えてだ。僕は微笑みながら話した。
- 「そう考えるとね」
- 「ったくな、でかいって思ってたんだけれどな」
- 「こうしてここから見るとな」
- 「小さいよな、本当に」
- 白いメガロポリスは赤い荒野と青い空に挟まれてそこに浮かんで
- っ た。 いる。 僕達の住んでいる世界はそんなものだった。 黒い道が一条出ていて。その浮かんでいる街は本当に小さか
- それを見てから。僕はまた皆に告げた。
- 「じゃあ今からね」
- 「帰るんだな」
- うん、そうしよう」

こう皆に告げた。

街に帰ってそれでね」

何する?」

まだ時間あるし何処かに行くか?」

ビリヤードでもするか?」

いいね

仲間の一人のビリヤードという言葉に反応してみせた。

じゃあ今日はそれやろうか」

よし、今日は負けないからな」

俺だってな」

俺の上達した腕見せてやるぜ」

リスは大きく見える。 けれどそれはやっぱり浮かんでいるだけのも 僕達は車に乗り込んでそうして街に戻った。 中に入るとメガロポ

のだとわかった。 広い荒野の世界の中で。

荒野のメガロポリス 完

6

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きイ 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 います。 ンタ そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 存書籍 は 2 0 タ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n7660o/

荒野のメガロポリス

2010年11月7日13時55分発行